

4. 調査結果の考察

(1) 調査結果のまとめ

【全体】

- ・交際相手がいる人は 3 割程度。
- ・結婚したいと思っている人は 5 割程度。
- ・未婚の理由としては「相手がいない」が 42.5%で最も多い。
- ・結婚相手としてこだわるポイントは男女ともに「自分と価値観が近い」が最も多いが、2 番目に多いのは、男性では「容姿・スタイル」、女性では「経済力」。
- ・異性との出会いの機会については 9 割の人が「少ない・全くない」。
- ・現在婚活をしている人は 1 割にとどまる。婚活経験がない人は 6 割超。
- ・具体的な婚活内容としては、「ネット系婚活サービス」が 52.2%で最も多く、平成 27 年度の調査より 4 倍以上増加。一方、「交流イベント・パーティー」は約 4 割、「友人や職場の同僚からの紹介」は約 5 割、平成 27 年度の調査より減少。
- ・異性の紹介を受けたいと思っている人は 6 割。
- ・異性を紹介するのに望ましい人としては「友人」が 77.4%で最も多い。
- ・マッチングアプリを利用している人は 1 割。選ぶ決め手としては、男性では「多くの独身男女の登録があること」(63.9%)、女性では「個人情報の保護対策がとられていること」(61.1%)が最も多い。
- ・『はぴこ』の認知度は 3 割弱。
- ・『しまコ』の認知度は 2 割弱。『しまコ』を利用しない理由は、「写真の掲載に抵抗がある」が 43.8%で最も多い。
- ・「しまね縁結びサポートセンター」の認知度は 3 割強。知ったきっかけは、「島根県や市町村の広報紙」が 30.9%で最も多く、次いで「縁結びサポートセンターや島根県のホームページ」が 25.9%。
- ・コロナ禍を機に結婚に対する気持ちに変化があった人は 1 割強。結婚願望がなくなった(弱まった)人が 6.8%、できた(強まった)人が 7.8%。
- ・コロナ禍においても婚姻や出産が増えるために必要な支援は、「子育て世帯への経済的支援」が 53.3%で最も多く、次いで「家庭と仕事が両立できる職場の制度づくり」が 48.8%、「子育てに優しい社会の環境づくり」が 46.3%。

【20代】

- ・交際相手がいる人は、男性では 3 割程度、女性では 4 割程度。
- ・結婚したいと思っている人は、男性では 7 割程度、女性では 8 割弱。
- ・結婚意欲がある人のうち 6 割は現在の年代で結婚したいと考えている。
- ・未婚の理由としては「相手がいない」が最も多い。
- ・男女ともに 7 割の人は異性とのコミュニケーションに苦手意識がない
- ・異性の紹介を受けたいと思っている人は、男性では 7 割弱、女性では 6 割。

【30代】

- ・交際相手がいる人は、男性では 2 割程度、女性では 3 割強。
- ・結婚したいと思っている人は、男性では 6 割程度、女性では 5 割程度。
- ・結婚意欲がある人のうち 6 割は現在の年代で結婚したいと考えている。
- ・未婚の理由としては「相手がいない」が最も多い。
- ・男性の 5 割、女性の 4 割弱は異性とのコミュニケーションに苦手意識がある
- ・異性の紹介を受けたいと思っている人は、男性では 7 割、女性では 6 割。

【40代】

- ・交際相手がいる人は、男女ともに 3 割程度。
- ・結婚したいと思っている人は、男性では 4 割弱、女性では 1 割程度。
- ・結婚意欲がある人のうち 7 割は結婚する年齢を意識していない。
- ・未婚の理由としては、男性は「経済的に余裕がない」、女性は「自分は結婚に向いていないと思う」が最も多い。
- ・男女ともに 4 割の人が異性とのコミュニケーションに苦手意識がある
- ・異性の紹介を受けたいと思っている人は、男性では 5 割強、女性では 4 割強。

(2) 調査結果からの考察

結婚に対する意識について

回答した独身者の約半数は結婚したいと思っているものの、「相手がいない」ために未婚でいる人が多い。また、男性では「経済的に余裕がない」こと、女性では「独身の自由さを失いたくない」ことも未婚でいる理由として多かった。結婚に対する意欲がある人は、20代では7割強、30代では6割弱、40代では2割強と、年齢が上がるにつれて少なくなる傾向がある。また、20代～30代の6割は現在の年代で結婚したいと考えているため、早い段階から婚活への働きかけをすることが重要だと考えられる。

婚活への取り組みについて

独身の異性との出会いの機会については、9割の人が「少ない・全くない」と回答しているものの、現在婚活をしている人は1割にとどまっている。結婚の意向がある人に限っても、現在婚活をしている人は2割弱にとどまっており、多くの独身者が出会いの機会が少なく、会うための活動もしていない状況である。

6割の人は異性の紹介を受けたいと思っており、紹介者として望ましい人では「友人」(77.4%)、「職場の同僚や上司」(35.1%)の割合が高くなっている。これらのことから、婚活で見ず知らずの異性と出会うよりも、自分の身近にいる人から異性の紹介を受けたいと考えている人が多いことがうかがえる。

婚活をしている人の具体的な活動内容は、「ネット系婚活サービス」が52.2%で最も多くなっている。この割合は平成27年度の調査と比べて4倍以上増加している。また、「交流イベント、パーティーに参加している」は平成27年度の調査より約4割、「友人や職場の同僚を通じて紹介を受けている」は約5割減少しており、婚活方法がオンライン化の方向に進んでいることがうかがえる。

「しまね縁結びサポートセンター」、『はぴこ』、『しまコ』の認知度について

「しまね縁結びサポートセンター」、『はぴこ』の認知度はそれぞれ3割程度、『しまコ』の認知度は2割弱となっている。婚活経験者に限ってみると、「しまね縁結びサポートセンター」、『はぴこ』の認知度は5割強、『しまコ』の認知度は4割弱と若干高くなっている。ただ、婚活経験者に限ってみても、「しまね縁結びサポートセンター」、『はぴこ』の利用経験がある人はそれぞれ1割強、『しまコ』の利用経験がある人は1割弱にとどまっており、いずれもあまり利用されていない状況が浮かび上がってくる。

「しまね縁結びサポートセンター」を知ったきっかけとしては、「島根県や市町村の広報紙」(30.9%)、「縁結びサポートセンターや島根県のホームページ」(25.9%)が多い。また、婚活をしている人の割合が高い30代では「店舗等でポスター、リーフレット等を目にした」(25.9%)も多くなっている。

以上のことから、「しまね縁結びサポートセンター」、『はぴこ』、『しまコ』の認知度向上や利用者の増加のためには、引き続き広報紙、ホームページでの広報に力を入れ、商業施設など人通りが多い施設でポスターを掲示したり、リーフレットを配布したりすることが効果的だと思われる。

『しまコ』については、利用しない理由として「写真の掲載に抵抗がある」(43.8%)、「そもそも仕組みがわからない」(34.4%)との声が多いことから、写真を掲載しなくても利用できたり、写真を公開する範囲を制限したりする機能があれば、写真の掲載に抵抗がある人達にも利用してもらえるのではないかと思われる。また、システムのイメージや利用の流れについての分かりやすい説明・広報も求められる。

コロナ禍における結婚について

コロナ禍を機に結婚に対する気持ちに変化があった人は1割強にとどまっており、ほとんどの人は変化していない。

また、コロナ禍においても婚姻や出産が増えるために必要な支援としては、53.3%の人が「子育て世帯への経済的支援」と回答している。これは特に20代で多く、若い世代にとって子育てにかかる経済的不安が大きいことがうかがわれる。また、「家庭と仕事が両立できる職場の制度づくり」(48.8%)、「子育てに優しい社会の環境づくり」(46.3%)も多くの人が必要と回答している。

以上のことから、必要な支援策については、コロナ禍という前置きを付けた設問ではあるが、回答割合の高かった経済的支援、労働条件や子育て環境の改善等は、コロナ禍であるかないかにかかわらず求められている支援であると考えられる。